



# 相濱神社

## 祭神

日本武尊(やまとたけるのみこと)  
宇豆彦命(うずひこのみこと)

## 例大祭

祭礼日 三月最終土曜日(宵祭)、最終日曜日(本祭)

江戸時代から続けられているという祭事で、お不動さんの縁日が当られています。古くは御輿があり、安房神社例大祭の浜降「磯出」神事の先導役をつとめていました。現在は曳船神事の御船祭だけが行われています。



白く塗られた神明鳥居が美しい相濱神社

## 由緒

創建された年代は不肖であり

ますが、養老年間(奈良時代)には安房神社を中心に御浜に御輿が集ったといわれており、御輿がこの浜で「相(合)う」ところから「相浜」の地名がつけられたと言われています。

感満寺は旧浪除神社の別当寺で、開基は文武天皇二(六九九)年、役行者です。宝亀元(七

## 相濱神社の御輿



安房神社の例大祭において、浜降「磯出」神事の先導役をつとめた相濱神社の御輿。写真は昭和59年3月本殿屋根改修記念のもの。

|     |        |      |      |
|-----|--------|------|------|
| 地区名 | 相浜     | 胴の造り | 平屋台  |
| 神社名 | 相濱神社   | 桝組   | 五行三手 |
| 屋根  | 延屋根 黒漆 | 扉    | 四方扉  |
| 葺手  | 普及型    | 鳥居   | 明神鳥居 |
| 造り  | 塗神輿    | 台輪   | 普及型  |
| 露盤  | 樹型     | 台輪寸法 | 三尺六寸 |
| 木杵  | 杵      |      |      |

九)年、役行者です。宝亀元(七

七〇)年、本尊不動明王が勧請され関東三不動として信仰が厚かったといわれています。文政十三(一八三〇)年の由緒書によると感満寺には本堂、仁王門、鳥居があり浪除神社も感満寺境内にあったと推測されています。

明治初年の神仏分離令で寺号を廃し、その後楫取(かんどり)神社を合祀し相濱神社となりました。祭神の日本武尊は景行天皇の息子で西国、東国鎮護に活躍しましたが、悲運の最期をとげ、神として勧請されました。「大鳥」「鷺」「白鳥」という名前のつく神社に祀られていることが多いようです。

楫取神社の祭神・宇豆彦命は神武東征神話で水先案内人として活躍した「航海の神様」であり、大和国造となる歴史上の人物です。大和系の海人族で、紀州の漁法も指導した漁師の神様でもあります。

馬は壇ノ浦源平合戦の板絵で、絵師

もありません。

## 自慢の「相濱音頭」

平成八年五月二十六日、第三十回郷土民謡民舞春季大会において、合唱の部で見事文部大臣賞に輝きました。作詞は、地元鈴木馨さん、作曲は東芝専属民謡歌手の小澤千月さん。数年前には富崎に伝わる漁撈歌、安房節を復活させた「小さな地区にでっかい栄冠です。」

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましても指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。



昔ながらに女装した男衆が屋根の上で踊る



七福神彫刻(部分)

また、館山市立博物館には、作者が、相濱神社にあった「七福神」の彫刻が収蔵されています。

は雪舟等楊の二世等淋の門人である。要山等。文政年代の絵師。